

赤坂新町五丁目町会 様、

令和5年3月30日
赤坂六丁目住民有志の会

申し入れ書

前略：

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和5年3月10日貴会定例会議事録を拝見しました。その中で、参加役員の中から、町会でまちづくりの話を取り上げてほしい旨、またはその様な場を作ってほしい旨の申し入れがあったと知りました。

当赤坂六丁目壽民有志の会では、その後会合を持ち、協議したうえで 以下町会へ申し入れをします。

結論からいえば、再開発の機運を助長するような「まちづくりの話合い」を、町会に持ちこまないでいただきたい。また町会を利用しないで頂きたい。

当南地区では、市街地再開発をめぐり、推進派の「赤坂六丁目まちみらい協議会」と我々、慎重派である「赤坂六丁目住民有志の会」とそれぞれ基本的立場で対立していることは周知の事実です。しかも、ご承知のように、当町会南地区は、住友不動産によって、この数年、土地買収や借地権買収が進み、また雑居にル・共同住宅の賃貸借契約止めによって、住民や事務所を追い出しています。まるで意図的に街の再開発・荒廃化を狙っているようにみえます。

その様な状況下では、我々から見ると、単なる話合いが、既にフェアでない状態になっていると思えます。一般的話し合いということ自体に疑問符をもっています。

一方、私たちの大多数も町会員です。町会については、長く、主たる目的を居住住民の親睦を礎にして、共同で防災・防犯・快適などを目指して活動する地域団体と認識して、私共もその存在意義を尊重しています。しかしながら、町会のなかで、根本的に対立する問題を議題にのせれば、そのたびに町会員として不快な思いをして、純粋に町会活動に参加できなくなり、支障がでる可能性が高くなります。また地権者である

町会員として、現段階として町会に介入してほしくないと考えています。

したがって、我々も町会で再開発の議論をすることは、控えています。再開発がどうであれ、町会活動はわれわれ生活の安心安全に必要と考えているからです。

「赤坂六丁目住民有志の会」は令和元年より自発的に再開発に慎重な地権者が参集して、現在では町会員を兼ねる地権者（居住者）が数多く同意・参加しています。

これまでコロナ渦であつまりにくくありましたが、今後は適宜、情報交換・勉強会を開く予定にしています。

もし、我々の意見を聞きたいのであれば、個々に私共も会合にきて話を聞いてみたりしてみたらいかがでしょう。 逆に私共の会からも「まちみらい協議会」へ参加している人もいます。

ただ、注意しなければならないのは、どちらも任意団体であり、必ず話をしなければならない義務はないことです。このことは、港区からも承認は取っています。

もともと。我われにはいわゆる再開発を目指すまちづくり機運はないからです。話合いが、開発機運に利用されることは警戒しています。

改めて、私共、有志の会は、当方の主張等を 町会の場合では、話題にすることを極力控えています。私たち有志のほとんどは町会員であります。町会の場合が論争の場になっていがみ合うことは好みません。

町会長・町会役員には、賢明な判断をしていただきたいと存じます。

草々